

自尊感情を育む

広島市立楽々園小学校 校長 広田 正樹



道徳教育・授業改善・無音読書・無言掃除・残菜ゼロ・らっこタイム・異学年交流・立ち止まって語先後礼・・・、様々な取組みの教育効果が表れてきています。

楽々園小学校では、「子どもの自尊感情を育む学校」を目指して日々教育活動を進めています。

「自尊感情」とは、自分自身が価値ある人間だと確認できることです。自分のよさが分かり自分をかけがえのない存在だと思える子は、周囲の人への思いやりも育まれます。そして、自信をもって行動できる子に育ちます。

確かな学力・豊かな心・健やかな体・・・知徳体のバランスのとれた教育を実践することで自尊感情をしっかりと育んでいきたいと思います。

学区自主防災からの お知らせ

災害から身を守るためには

地震・津波・台風・洪水・土石流の発生で命を守るため、日頃から防災意識を高め、大災害に備えておくことが、被害を最小限にとどめることとなります。

◎ 自助 ①日頃から家族で災害について話し合う。

②避難場所を決めておき、必ずその場所に避難する。

③命を第一とする。

◎ 公助 消防署・消防団・警察署の情報・指示に従う。

◎ 共助 近隣どうして声を掛け合い定められた場所に避難する。

楽々園学区自主防災連絡協議会

会 長 藤岡武人

サロン「やまぼうし会」

代表 松野 八重子

初めまして、昨年5月に隅の浜3丁目より立ち上げましたサロン「やまぼうし会」です。

5月ごろに白いかれんな花を付ける“やまぼうし”
花言葉は「友情」

早いもので会は一年を迎えようとしております。
歌やリズム体操に始まり、地域包括支援センターのお話
ヤクルトさんの腸内環境の勉強、ある時はゲーム等楽しいひとときを過ごしています。

ぜひ一度一緒にしませんか！

場 所 典礼会館3階（隅の浜3丁目）

開催日 毎月第2金曜日

時 間 午後1時30分～3時30分

会 費 隅の浜3丁目の方 100円
そのほかの方 200円

12月には、手作りの食事会を美隅公民館でにぎやかにしました。

民生・児童委員の活動

高齢者の被害を防ぐ

民生委員児童委員 平林 勝恵

民生委員になって20年近く、難しい問題を抱えたこともあり、自身の人間形成に繋がり、沢山の素晴らしさと、喜びも味わいました。

その中で一人暮らしの高齢者の女性から「床下乾燥機などを60万円で契約したが解約したい、今朝9時に業者が来るのですが」と、早朝の相談でもう時間がありません。土曜日のため行政はお休み、私は地域の人に相談するしかありませんでした。

その方々から参考になるパンフレットや電話で助言をもらい女性宅に行ったところ、既に業者は車から材料を降ろしているところでした。

私は民生委員であることを伝え、当人が解約したい旨を告げると「既に契約済みでだめだ」と譲らない。ふと以前研修を受けた消費者生活センターを思いつき、内容を電話で相談してみました。

私は、電話の向こうの対応をオウム返しに返事をし「大丈夫ですよ、頑張って」と言われる声に励まされ、毅然として業者と対応することができたと思います。

その結果、諦めざるを得なかったのか、玄関のドアを思いきり蹴飛ばし、捨てぜりふをはいて帰って行きました。あっけなく事が終わり二人で顔を見合わせほっとしました。

クーリングオフの説明をして胸をなでおろしながら家に急ぎました。この解決も地域の方やセンターの助言があってこそのことです。

他の地域に転居された彼女は、今、どうしておられることでしょうか。

「敬老の日のつどい」によせて

民生委員児童委員 金澤 節子

昨年9月15日に、楽々園学区の「敬老の日のつどい」が開催されました。私たちは、75歳以上の方々へ、案内をもって訪問しました。

毎年楽しみに待っていただいている方、この度初めて案内を手にし「もうそう言う年になったのですね」と驚かれる方、「まだ現役で仕事をしています」とにこやかにおっしゃられる方、日頃あまりお話をする機会のない方々とも会話もでき喜んでおります。

当日、楽々園小学校体育館で式典、講演、とプログラムが進んでいくなか、地域包括支援センター長が「毎日どんなことをしていますか」とインタビューされました。「ラジオ体操をしています」「万歩計を付けて散歩に行きます」「手の上げ下げや膝の運動をしています」「釣りに行きます」など、足腰を弱らせない様子が伝わってきました。いつまでも元気で過ごせる活力をたくさんいただき、ふれあいが深くなるつどいでした。



桜は佐伯区の木です

編集後記

皆さんに愛され関心ある話題につとめ
マンネリにならないよう心がけています。
気になる話題や、アイデアがありましたら
お知らせください。また地域の方々に支えら
れていることに感謝しながら、努力を続け
たいと思います。

編集委員 佐伯、鳴高、石川、平林